

令和5年度 仙台市立鶴が丘中学校の教育

I 学校の状況（令和5年度）

1 住所等

学校所在地	(〒981-3109) 仙台市泉区鶴が丘二丁目1番地1		
電話番号	022-373-1870	Eメールアドレス	turu-jhs@sendai-c.ed.jp
FAX番号	022-373-3487	URL	http://www.sendai-c.ed.jp/~turu-jh/

2 基本数等

生徒数・学級数（令和5年4月1日予定数）

		1学年		2学年		3学年		計	総計	
通常	生徒数	73		89		98		260	267名	
		男 38	女 35	男 32	女 57	男 48	女 50	男118女142	1年	73名
	学級数	3		3		3		9		
特支	生徒数	0		2		5		7	2年	91名
	学級数	知的(1)、情緒(1)						2		
	障害別	知的 3	情緒 4	言語	虚弱	肢体	弱視	難聴	3年	103名

教職員数

		校長	教頭	主幹教諭	教諭	養護教諭	事務職員	6・6講師	非常勤講師	主任	計
教職員	男	1	1		13		1		1		17
	女				6	1		1	1		9
	計	1	1	0	19	1	1	1	2	0	26
会計年度任用職員:ALT(女1)、SC(男1)、学校用務(男1、女2)、図書事務(女2)、給食パート(女2)、指導支援員(男1、女1)、指導補助員(女1)、スクールサポートスタッフ(女2)										男3 女11	40名

学校の状況

本校は、鶴が丘・松森地区の生徒数増加にともない昭和57年に泉市立七北田中学校から分離独立し、泉市立鶴が丘中学校として新設開校した。昭和63年、仙台市・泉市の合併により、仙台市の第51番目の中学校として「仙台市立鶴が丘中学校」が誕生した。平成13年には男子駅伝部が、仙台市大会で8連覇（うち全国大会出場3回）を果たしたこともあり、どの運動部も意欲的に練習に取り組んでいる。さらに、生徒は明るく素直であり、日々はつらつと学校生活を送っている。

学区は、藩政時代からの田園地帯であった松森地区とベッドタウンとして造成されたニュータウンの鶴が丘地区からなるが、両地区の融和・協調がよくできている。また、本校教育振興に対する保護者及び地域の理解と支援体制はしっかりしていて、「鶴が丘中学校後援会」や「親父の会」の存在は生徒の健全育成の大きな支えとなっている。また、地域との交流活動や奉仕活動を積極的に展開し、地域に開かれ地域に愛される学校づくりを目指している。



<校章の由来>

風雪に耐えて育つ松の緑を配した四囲いの丘は、恵まれた自然環境と生徒、教師、保護者、及び地域の人々との連携と協調を表す。

また、中央の学舎(円)から四方に発する光は、希望と理想に燃えて着実に勉学に励む鶴が丘中学校生徒の限りない躍進を表す。

令和5年度鶴が丘中学校グランドデザイン

【校訓】「**自学・自律・質実・剛健**」

【教育目標】自ら学び、心豊かにたくましく生きる生徒の育成

鶴が丘中学校のミッション

志を高く掲げ、21世紀をたくましく生き抜く生徒の育成

鶴が丘中学校のビジョン

保護者・地域とともに社会を支える25歳の姿を見据えた教育

〈めざす学校像〉 **笑顔・活気・感動あふれる鶴が丘中学校**
豊かな学びが広がる学校
生き生きと活動に取り組み豊かな心を育てる学校
保護者・地域と共に歩み、誇れる学校

〈めざす教師像〉 **生徒・保護者・地域にとってありがたい教師**
優れた専門性と 教育への情熱と 総合的人間力と
実践的指導力 学び続ける力 連携・協働力

質実
自学

「あいさつ」
礼儀・思いやりある生徒

TRUST

「あきらめない」
心身共に健康な生徒

STOIC

UPDATE

「あしたをひらく」
自ら深く考える生徒

T S U R U

RESPECT

「あいてのために」
相手の立場に立つ生徒

剛健
自律

「**誇りある学校を目指す**」「**創造(生徒会テーマ)**」と共に
共に学び 学びを分かち合い、仲間と共に成長する
共に創る 学校を、地域を、そして自分を創る

II 学校経営計画

1. 基本方針

- 「教育構想2021」（2021～25年度）を参考にするとともに、学校教育関係法令、学習指導要領に則り、そして仙台市「杜の都の学校教育」に沿い、今求められている諸課題の追及に努める。

「たくましく、しなやかに自立する人を育てます」【仙台市教育構想2021】

夢と希望を持ち、自らの可能性に挑戦する力を育てる **基本方針** 個性に応じた一人ひとりの学びを促し、長所を引き出す

健やかに心身を備え、豊かな人生を拓く力を育てる

- 「たくましく生き抜く力」を育むため、健やかな心身の育成、確かな学び、自分づくり教育を推進するよう教職員一人一人の豊かな発想を生かし、活力に満ちた学校づくりに努める。

「幸福な人生の獲得」・「幸福な社会の維持・形成」に必要な諸力を育む

- 「親切」、「ていねい」、「愛情」そして「子どもの側に立った指導」をモットーに日々の教育実践に努める。

令和5年度鶴が丘中学校「学びの地図」

【令和5年度協働型学校評価目標】

「わかり合い まなび合い つながり合える生徒」
～コロナ禍にあっても人との関わりを大切にする生徒の育成～



改善プロジェクトチーム・活性化推進チーム

学校改善プロジェクトチーム (PT)

学校改善プランを組織的・協働的に展開します

学校活性化推進チーム

生徒の主体的な活動をバックアップします

【未来の学びPT】
各学年

GIGA
スクール

SDGs
ESD

EDTech
教育と
テクノロジー

社会を
支える
25歳

【心の教育PT】
各学年

集団
づくり

信頼
づくり

ダイバーシティ・インクルージョン

SST
SGE

【健康安全PT】
4学年

健康
づくり

安全
安心

コロナ
禍の健
康安全

地震へ
の対応
等

生徒活動
活性化チーム

生徒会
活性化チ
ーム

地域連
携活
性化チ
ーム

イン
ター
ネット
活
性化チ
ーム

学校行事
活性化チーム

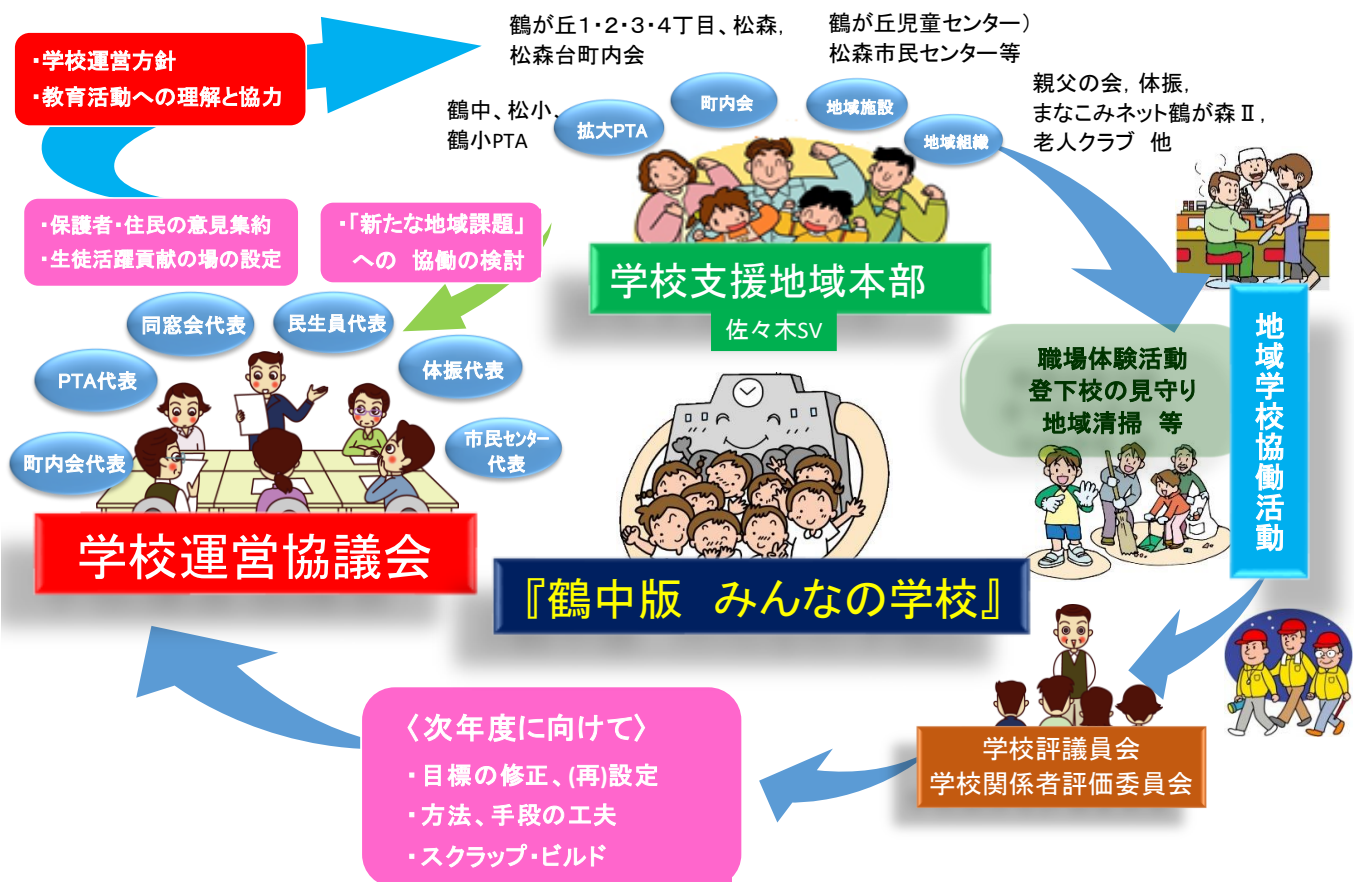
合唱
コンク
ール

鶴中
祭

スポ
ーツ大
会

令和5年度コミュニティスクールの取組

『鶴中版 みんなの学校』(コミュニティ・スクール)



2. 校訓 「自学・自律・質実・剛健」

3. 教育目標 「自ら学び、心豊かに たくましく生きる生徒の育成」

4. めざす生徒像

自 学

自 律

質 実

剛 健

「あしたをひらく」
自ら深く考える生徒

「あいてのために」
相手の立場に立つ生徒

「あいさつ」
思いやりのある生徒

「あきらめない」
心身共に健康な生徒

めざす生徒像を実現するために

教育目標「自ら学び、心豊かに たくましく生きる生徒の育成」を実現するために、次の3つを大切にしながら、教職員が一丸となって取り組む。

教育活動を展開するに当たって大切にしたいこと

- ・「仲間（人）」や「物」「事象」とのかかわりを通して、思いやる心や敬う心を育む。
（生徒指導の充実・道徳教育の充実）
- ・学習や運動への自主的な取組を通して、知性を高め感性をはぐくみ、心身を鍛える。
（基本的な生活習慣の確立・心身の鍛錬・学習意欲の向上）
- ・体験的な学びの中で、生徒の「気づき」や「発見」を大切に、新たな疑問をもたせる。
（授業の工夫・改善、体験学習の充実）

5. めざす学校像

「笑顔・活気・感動あふれる鶴が丘中学校」

- ・豊かな学びが広がる学校
- ・生き生きと活動に取り組み豊かな心を育てる学校
- ・保護者・地域と共に歩み、誇れる学校

6. めざす教師像

「生徒・保護者・地域にとってありがたい教師」

- ・優れた専門性と実践的指導力
- ・教育への情熱と学び続ける力
- ・総合的人間力と連携・協働力

7. 学校経営の指針

(1) 学校評価を生かし、適切な教育課程の編成に努める。

学校の自己評価、学校評議員・学校関係者評価委員会、保護者等による他者評価を積極的に進め、その結果や学習指導要領の趣旨をふまえ、指導方法や指導形態、指導体制の改善に努める。併せて、規範意識の醸成を重視した教育の充実を図る。

(2) 授業時数を確保し、わかる授業・楽しい授業の実践に努める。

教師自らが教材や指導方法の研究に励み、生徒の側に立った授業の実践、わかる授業・楽しい授業の実践を通して、基礎・基本の確実な定着を図るとともに、確かな学食の向上に努める。

(3) 活力に満ちた学校生活を目指し、積極的な生徒指導の推進に努める。

生き生きと活力に満ちた学校生活を目指し、学校行事や生徒会活動、部活動等の生徒の様々な活動の充実を図るとともに、教師と生徒、生徒相互の心の触れ合いを通して好ましい人間関係を構築するよう積極的な生徒指導に努める。

(4) 豊かな心が育つ、明るく潤いのある教育環境の整備に努める。

全ての教育活動の中で、生徒が安心して明るく楽しく生活し、豊かな心が育つよう教育環境の整備に努める。

(5) 積極的に情報公開に努め、地域とともに歩む学校づくりに努める。

生涯学習の視点から学校・家庭・地域それぞれの教育機能の向上と連携を強化し、地域に根差した地域とともに歩む学校づくりに努める。

(6) 新しい校風の樹立と特色ある学校づくりに努める。

新鮮な夢と希望、燃える情熱に満ちた生徒・教職員が「自分たちの力で鶴が丘中学校を創造していく」という協働意識をもって学校づくりを進めるという基盤に立ち、生徒一人一人が輝く新しい校風の樹立と特色ある学校づくりに努める。

8. 令和5年度 協働型学校評価重点目標

◎中学校区協働型学校評価重点目標：「人との関わりを大切にする児童・生徒」

○鶴が丘中学校協働型学校評価重点項目

『わかり合い まなび合い つながり合える生徒』

～コロナ禍にあっても人との関わりを大切にする生徒の育成～

9. 令和5年度 重点目標を達成するための具体的な推進事項

- ・メディアタイムコントロール推進：実体験活動（メディアタイム以外）の活動の充実
教科授業と生活との関連
- ・心の教育の充実：生徒との信頼関係づくり、コミュニケーション能力の育成、道徳の充実
- ・学力の向上：読書活動の充実、学習ノートの工夫、学習の約束の徹底、授業研究
- ・特別支援教育の充実：学習支援室の経営充実、特別支援教育体制の充実整備
- ・いじめ・不登校対策推進：生徒の気持ちに寄り添った関わり、親身な教育相談

(1) 教科指導

・わかる授業をつくる

基礎・基本は全員が分かるように！

各教科に対して、生徒が興味関心を持つような授業の組み立て。

(各教科の面白みを伝える工夫を)

生徒の様子を観察し、授業中の声かけをしっかり行う。

板書を工夫する。

(途中で板書を消さずに、板書を見て授業を振り返ることができるように)

説明は分かりやすく。

- 授業中に目的を持った言語活動を入れる
ねらいを達成させるための手段としての言語活動。
生徒のつばやきをとらえ、授業の中に取り込めるように。
グループ活動をさせるときは班編成にも配慮を。
(活動中、一人参加できないでいる生徒がいないかどうかの気配りを)
- 授業での安全管理の徹底
道具等を使用する教科における安全配慮、授業中に教室の様子に気を配る。
危険なものには番号をつけ必ず回収。
けがをした場合には、必ず報告するように生徒に指導する。
授業中のけが、特に首から上は病院で受診。

(2) 学級経営

- 学校経営目標、学年経営目標を受けての学級経営案の作成
3年間を見通してどんな生徒に育てたいのか、そのために何を重点にするのか。
生徒の人間関係の把握。
(生徒の交友関係の変化や表情の変化に気をつける)
班や座席は必ず教師が学級経営の目標に沿って意図的につくる。
生活環境を整える。
(清掃の徹底、机の縦横、黒板、黒板のみぞ、清掃ロッカー、学級ロッカー等)

(3) 生徒指導

- 生徒の将来を見据えた指導
悪いことは悪いという指導。
(生徒の将来を考えて、このようになってほしいという教師の希望を必ず伝える)
様々な場面で正確な情報を集めてからの指導。
記録は大切。(話した内容をそのまま記録)
生徒指導は、必ず二人体制で行う。(特に女子生徒の場合)
部活動のトラブルに関しては担任に報告する。(担任不在の場合は学年に)
保護者を学校に呼んだときは、挨拶をして事情を正確に伝える。
(共に育てていくという視点で話をする)
何か起きたら、生徒指導主事、管理職に報告する。
(報告、連絡、相談・・・ほうれんそう の徹底)
- すさみをつくらない
廊下、教室は常に整理整頓する。
ごみが落ちていたら進んで拾い、学校全体の美化にも心配りする。
壁や掲示物のいたずら等は、すぐに修理をする。
トイレ等の環境を整える。(古い校舎だからこそ)。

(4) チームとしての教師集団

- 学級担任として様々な課題を抱え込まない。学年というチームでの動き。生徒に対する共通理解を図り、同じ声かけができるように。学年間で、教師間でコミュニケーションをとる。学年主任を中心にして全員で対応する。何かあったらその日のうちに対応する。学年間の連携も密に。学年というチームと鶴が丘中学校というチーム。

(5) 保護者への対応

- 父母教師会本部役員、学年委員役員との連携。学年PTAでの説明の実施。各学級の懇談会での周知。家庭生活の様子の把握。(家庭との連絡は密に)保護者にしっかりと耳を傾ける。(何を言いたいのかをしっかりと把握する)生徒を良くしたい、良く育てたいという思いの共有。

(6) 地域への対応

- 地域連携担当への協力
地域での挨拶(生徒だけではなく教職員も大きな声で挨拶)
- 同窓会との連携
地域に生活し、鶴が丘中のために何ができるかを考えてくれている。
- 震災対応の防災計画、防災教育との関連での地域との連携

(7) 新学習指導要領との関連

中学校においては、義務教育を行う最後の教育機関として、教育基本法第5条第2項が規定する「各個人の有する能力を伸ばしつつ社会において自立的に生きる基礎」及び「国家及び社会の形成者として必要とされる基本的な資質」を卒業までに育むことができるよう、小学校教育の基礎の上に、中等教育を通じて身につけるべき資質・能力を、三つの柱に沿って明確化し、その後の学びに円滑に接続させることが求められます。

【新学習指導要領 資質・能力の三つの柱】

- 何を知っているか、何ができるか(個別の知識・技能)
- 知っていること、できることをどう使うか(思考力・判断力・表現力等)
- どのように社会・世界と関わり、より良い人生を送るか(学びに向かう力、人間性等)

中学校においては、「知識基盤社会」においてもますます重要となる「生きる力」の育成の理念を継承し、「生きる力」を構成する「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」をバランスよく身に付ける教育を推進しなければなりません。また、社会がどんなに変化しようとも、「時代を超えて変わらない価値あるもの」を確実に身につけさせる必要があります。正義感や公平さを重んじる心、自らを律しつつ、他人と協調し、他人を思いやる心、人権を尊重する心、自然を愛する心などの豊かな人間性を培うことたくましく生きるための資質や能力を育むことも、大切であると考えます。

生徒が、未来への限りない夢と希望を抱き、高い「志」を掲げ、豊かな人間性を身につけさせることを重要視し、その基盤として、生徒一人一人に「規範意識」を確実に身に付け、その高揚を図らなければなりません。生活規範や学習規範を確立し、「規律の中に個性あり」、「規律の中に自主性あり」という考え方に基づきながら、生徒の力を伸ばす学校、生徒が成長を実感できるような学校にしたいと考えています。

10 令和4年度までの取組

「3つの柱」

- ①思想：生徒の今と将来の幸せのための教育活動を通して、教職員も共に学び、成長し、幸せになる
- ②基本：共に学び、共に創る
- ③所作：「笑顔・挨拶・ありがとう」「合言葉」

11 令和4年度「学校教育アンケート」より

グラフは、令和4年度の「学校教育アンケート」を集計したものです。

6の項目は、8割に満たなかった項目です。生徒が、鶴が丘中学校に求めている内容だと読み取ることもできるのではないのでしょうか？

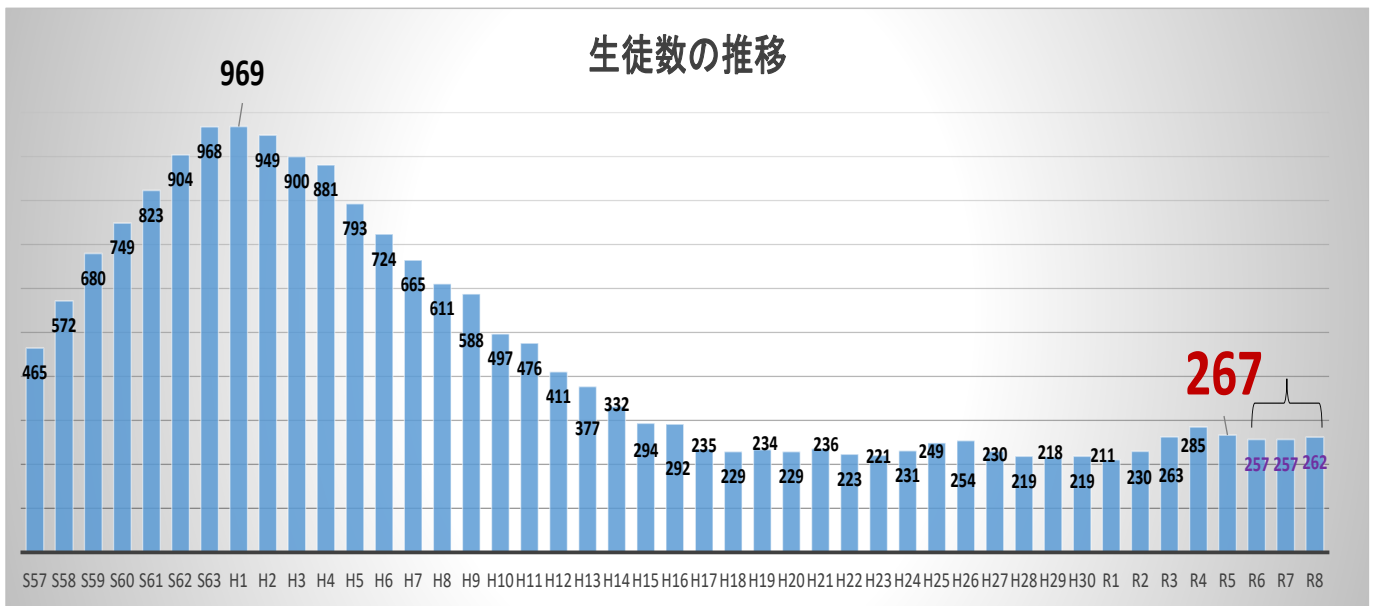
『生徒集計』

令和4年度 学校教育アンケート(生徒用)	
No.	項目
1	「合い言葉」を理解し、実行している。 合い言葉【笑顔・挨拶・ありがとう】
2	「新型コロナウイルス感染症対策」をしっかり守ることができた。
3	教育活動や生徒の様子について積極的に伝えている。 (校長室より、学校だより、ホームページ、鶴中ブログ、学年だより など)
4	生徒の安全や健康に努めている。 (校舎や施設の整備、防犯対策、連絡メール など)
5	いじめや暴力のない学校づくりに努めている。 (いじめ防止きずなキャンペーン など)
6	困ったときや悩んだときに相談がしやすい。(教育相談 など)
7	学力の向上に努めている。(少人数指導 など)

8	鶴が丘中学校は、挨拶がよくできている。
9	規則正しく活気がある。(各活動への積極的な取組)
10	部活動に熱心に取り組んでいる。
11	生徒が活躍できる機会や場を多く設けている。 (授業、各行事、部活動 など)
12	思いやりのある生徒が多い。
13	豊かな心を育てる活動に積極的に取り組んでいる。 (道徳教育、各行事 など)
14	「わかり合い まなび合い つながり合える生徒の育成」 (協働型学校評価重点目標)の達成に努めている。

12 その他

(1) 生徒数の推移



※令和6年度以降は、小学校の在籍数からの推定数

(2) 校歌

校歌 「飛翔」

山下嘉範 作詞
曾我道雄 作曲

太平洋の 氣を望む
光さやけき この丘の
昔の眠り 今覚めて
賢き我ら 学舎に
求めん真理 鶴が丘

泉ヶ岳に 雲ぞ湧く
聳ゆる姿 雄々しきを
心静かに 鑑とし
逞し我ら 潑刺と
歩まん道を 鶴が丘

歴史ゆかしき 松森の
鶴ヶ城址に 咲く千草
耀う翠麗しく
豊かに我ら 友情の
開かん花を 鶴が丘